

浜松市生活支援体制づくり協議体（第2層、高丘圏域） 第2回会議 議事録

開催日時	令和4年10月28日（金）9時30分から11時10分まで
参加者	委員：17人 事務局：11人
場 所	北部協働センター 第2・3講座室
内 容	<p>1. 開会</p> <p>2. 挨拶 生活支援体制づくり協議体会長</p> <p>3. 協議内容</p> <p>① 前回の振り返り 第一回協議体会議では認知症高齢者の声掛け訓練を行った。</p> <p>② 地域で認知症高齢者を対応したケースについて</p> <p>▼交番 より 認知症の方の対応ケースはほぼ2種類。ひとつめは、家から何かがなくなったと、本人から通報があるケース。泥棒が入ったような形跡はなく、本人がなくなってしまったと思われる。 ふたつめは、外でふらふらしているところを地域の方から通報が入るケース。 どちらのケースも、家族と同居の方だと家族を呼ぶなどの対応ができるが、ひとり暮らしの方だと対応に困ってしまう。対応が困難な場合には生活安全課につなげている。個人情報の問題もあるため、認知症の問題を家族以外の方に協力してもらおうということも難しいところがある。</p> <p>▼信用金庫より ・以下のような対応ケースがある。 複数回にわたりお通帳・ご印鑑を紛失されたと再発行されるケースがあり、本人は無くしたと思っているが実際にはご家族が管理していた。 基本的に、ご本人が本人確認書類を持参され、「紛失した」とお申し出いただく と再発行の手続きが可能。あとから発行した通帳やご変更後の印鑑が有効なので 例えご家族が保管しても、実際には変わっているというケースはよくある。 ・ご自分でご出金したことが思い出せないケースがあり、ご自身によってご出金 されたが、誰かが勝手に出金した、嫁さんが盗んだなどと被害妄想が出ることがあ る。そのほかにも具体的な対応ケースとして5つの事例についてお話しがあった。</p> <p>▼委員さんより ご自身の家族を介護された経験について話をいただいた。</p> <p>③グループワーク 「身近な人が認知症になったら何に困るのか、何をしてあげられるのか」について 3つのグループに分かれて意見交換を行った。</p>

	<p>4. 事務連絡</p> <p>5. 閉会 生活支援体制づくり協議体副会長</p>
<p>今後の見通し等</p>	<p>前回会議で声掛け訓練を行い、今回は認知症を身近に感じることをテーマに、遠信と交番の方に来てもらい事例を話してもらったことで、地域での認知症の人の対応課題などを知ることができた。また、委員さんより認知症のご家族の方を介護された経験を話された場面では、机上では学ぶことのできない貴重な話を聞くことができた。また、自分が認知症に前に何をしておくべきかについても考えさせられた。その後のグループワークでは、委員さんそれぞれの認知症の方との関わった経験を語られる場面もあり、認知症をより身近なものとして捉えることのできる話し合いの場となった。</p>